

草の根・人間の安全保障無償資金協力

令和元年度「ンチェウ県ンシペ・ヘルスセンター産科病棟建設計画」

起工式

2020年3月13日



定礎を行う池田次席



スピーチを行う池田次席



(左) スピーチを行うンチェウ県ムランブジ官房局長



(右) スピーチを行うンシペ・ヘルスセンター、ゴウエロ代表



(左) 既存の産科病棟を視察する池田次席と関係者



(右) 産科病棟建設への期待を寸劇で披露する地元中等学校生徒



(左) 産科病棟建設を感謝し伝統的な踊りを披露するンシペ地域住民

(右) マラウイでの活動を紹介する JICA 海外協力隊員、横田さん

2020年3月13日、ンチェウ県ンシペ地区において、草の根・人間の安全保障無償資金協力「ンチェウ県ンシペ・ヘルスセンター産科病棟建設計画」の起工式が行われました。式典には、当館池田次席に加え、県知事代理としてンチェウ県ムランブジ官房局長も列席しました。

ンシペ・ヘルスセンターは、1972年に建設され、母子保健サービスを含むヘルスクアを地域に提供しています。昨今の人口増加に伴い、分娩室に2台の通常ベッドしかない同センターでは、妊婦は、廊下で出産をすることもしばしばあります。同センターは、上記無償資金協力による供与金90,847米ドルを用いて、新たに産科病棟を建設します。この資金は、草の根・人間の安全保障無償資金協力プロジェクト（GGP）を通じて供与され、妊婦がプライバシーが守られ設備が整った医療施設で安心して出産し回復できる産科医療環境の提供が期待されます。

式典中、池田次席は、適切な妊娠ケアへのアクセス不足は、出産中の合併症のリスクを高め、妊婦および新生児の死亡のリスクを高める危険性があることに言及し、新たに建設される産科病棟が母親や医療従事者の希望と動機付けとなり、周辺地域からより多くの妊婦が同センターで産科医療を享受できるよう期待すると述べました。

また、池田次席は、同センターの管理者に対して、本プロジェクトの資金が目的通りに使用されるように適切な管理運営を行うよう求め、また、担当建設業者に対して、高品質で強固な病棟を期間内に建設するように要請しました。さらに、地域のリーダーや住民が一丸となり、本産科病棟を地域の財産として受け止め、建設および資金の管理運営を見守るよう助言しました。

最後に、池田次席は、日本政府はマラウイの開発努力を引き続き支援することを改めて表明しました。その一環として、マラウイで活躍している海外協力隊（JOCV）の役割について説明し、本式典に参加した同地域近隣で活動する JOCV の一人である横田美空（みく）さんを紹介しました。